

個人山行 東大雪山系 ニペソツ山(2,012m)

日程：2019年8月31日(土)～9月1日(日)

宿泊：テント泊

山行形式：日帰り往復登山

天気：曇り、ガス、強風、雨、晴れ

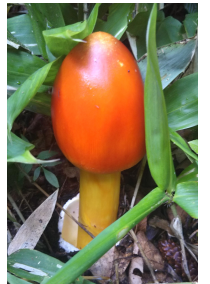
参加者：L相馬、SL藤木、長沼、笹山、八重樫、内山、宇田

8月31日(土)

4:50 まだ暗いうちに岡志別公園に集合・出発ー5:45 相馬さん宅で内山さん合流 6:00 出発 追分インターより高速～音更 道中は曇りや雨が降ってきたりの不安定な天気。上士幌→糠平温泉に出た時には、曇ってはいるものの明るくなってきてこれから晴れそうな気配に気持ちも上がった。10:00 防災ステーションでリーダーより山の上は10 m以上の強風が吹いているとのことで、この日はニペソツには登らず、代わりに糠平野営場にテントを張り明日 日帰りですアタックすることになった。ということで、この日は予定を変更。三国山に登ることとし、一行は三国峠へ向かった。が、途中雨が降って来てしまったので、明日のニペソツアタックに向けて体力を温存することにして、タウシュベツ橋梁を見に行くことになった。タウシュベツ橋梁は道路脇の駐車帯から森へ入ってすぐの展望台から見るのができたが、間近で見るという感じではなく遠くから眺めるといったところ。車へ戻る途中、散策路でタマゴダケを発見。晩御飯の具材にすべく持ち帰る。11:15 糠平野営場に着了頃には青空が広がっていた。テント設営 12:00 昼食 昼食後近くの酒屋で今晚の宴のアルコールとつまみを購入。しかし、宴は夜ではなく酒屋から戻ってすぐの12:50 から開始された、、、。16:30 夕食 煮込みラーメンにお餅を入れ食べる直前にとろけるチーズを入れて食べた。忘れていたタマゴダケは味噌汁に入れた。見た目が思いっきり毒きのこなので食べるのが怖かったが、煮ると赤から茶色へ変わり、食感はシャキシャキ、しかし美味しいかどうかは微妙であった。(あくまでも個人の感想) N沼さんがコッヘルに止まったハエを箸で掴もうとするが掴めるはずもなく。そして「宮本武蔵は箸をハエで掴む」などとあべこべなことを言い出し、みんないい加減酔っぱらっていた。だんだん夜も更けてきて理事長がたき火台を見つけて、そこからみんなで必死の火を起こした。キャンプファイヤーを囲んでしばし楽しんでいたが、雨が急に降ってきたので、お開きとしそれぞれのテントへ逃げ込む。それからすぐの18:30 には男性テントは一気に静かになり就寝したようだった。女性も19:00 過ぎには就寝。夜中、バケツをひっくり返したような大雨が降っていた。



タウシュベツ橋梁



タマゴダケ



真昼間からカンパイ！



理事長 たき火に上機嫌♪

9月1日(日)

2:00 起床 準備・テント撤収 空を見上げるときれいな星空が広がっていた。2:45 出発 幌加温泉手前から林道に入り3:17 駐車場着 3:35 ヘッドラントを付け出発 リーダーは熊笛を吹きながら歩いていた。登山道が一部崩落している危険箇所やドロドロのぬかるみや渡渉などライトを頼りに緊張しながら歩く。次第に空が明けてきた。オレンジ色の朝日が森や私たちを照らして気持ちも上がってきた。5:00 三条沼 そこからしばらく歩いていると後方から男性の叫び声？のような大きな声が聞こえた。理事長はくしゃみであろうと言うが、私は熊に襲われたのではないかと恐ろしなり、ヘタっぱな熊笛をピーピー吹きながら歩いた。6:27 山頂ま



三条沼

で4.5㍓看板着。ここからニペソツが見えるらしいが、真っ白で何も見えない。ここで先ほどの声の主と思われる単独男性が到着。函館の山岳会に所属する方で陽気な方だった。声のことを尋ねるとやはりくしゃみだったとのこと。熊に襲われていなくて一安心した。風が強くなってきたのでここで雨具を着る。ここから風が強くなり、登り

もきつくなってきた。滑りやすい急登をロープや木の枝を掴んでなんとか登りきり 8:02 山頂まで 3ヶ看板に着く。

この先のガレ場でナキウサギを見ることができた。ここから先は真っ赤なウラシマツツジがお花畑のように広がりとでも美しかった。が、今回は写真は撮る余裕が一切なく、この山行記録に写真が少ないのをご了承下さい。11:48 テン場着。相変わらず真っ白で何も見えない。風も強い。リーダーが山頂まで行くか確認を取り、せっかくここまで来たので行くことに。(しかしここからが長く苦しい道のりになることを私は知らなかった、、、)ハイマツをかき分けて進むが道が違うようで一度戻る。ガレ場を下ってみるがここも違う。内山さんが以前、反対側のガレ場を下っていったことを思い出したので、戻ってみるとケルンがあり、その先にピンクテープが確認できた。ここからガレ場を下ってしばらく歩いて前天狗へ出たが、真っ白。風が強く、だんだん体も冷え、体力も危うくなり、精神的にもきつくなって、何度ももうダメだ、と思った。ガレ場を過ぎるとホロホロ徳舜のような登山道の登り下りを何度も繰り返し 9:19 ようやく山頂まであと 1ヶ看板着。わあー、あと 1ヶだー！気持ちが踊る。が、この 1ヶが長かった、、、。歩けど歩けど辿り着かない。ようやくコルに出てトラバースすれば山頂に出るとわかっていても長い。強風や雨に濡れ、体力も限界、低体温で動けなくなるのではないかと何度も不安に襲われた。もうここでいいですと喉まで出かかっていた。リーダーが初めての人、行って！と言うので私が先頭に出た。まだかまだかと重たい足を引きずって登るもそれでも着かない。もう嫌だー。最後の力を振り絞って進むとようやく山頂標識が見えた。10:13 全員登頂 体が冷えるので写真を撮ってすぐさま撤収。帰り道は気持ちに少しの余裕ができるが、稜線に出るとまた強風に吹きさらされまだまだ油断ができない。本当に帰れるのだろうかと不安になる。前天狗、テン場まで戻ってきて振り返っても真っ白でとうとうニペ様を拝むことは叶わなかった。ニペは拝めなかったが途中雲が切れ、紅葉が始まりかけた美しい景色や糠平湖、西クマネシリ等々の遠くの山々を見ることができた。一瞬晴れ間も広がった。しかしその後激しい雨に降られ雨具を着る。下山は小走りで降りてきて 15:02 登山口到着 全員無事に下山。

往復 21 キロ 登り 6 時間 44 分 下り 4 時間 37 分(休憩含む)



晴れ間が広がり西クマネシリをのぞむ

憧れのニペどん

前天狗からニペソツ山がどーん見えることをニペどんと言うそうです。今回、初めての泊まりの装備を担いでの山中泊に不安があり、申し込み期限を過ぎてからの申し込みをしてしまい相馬リーダーにご迷惑をおかけしました。大きな不安があったにもかかわらず行きたいと思ったのは、ニペどんを見たいのと、山の上に泊まって夕日やご来光、夜には星空を見てみたいという長年の憧れがあったからです。結果的に糠平野営場でテントを張って翌日 日帰り登山となりましたが、重たい装備を担いでのあの急登の登り下りはできなかったのではないかと思います。精神的にも体力的にも厳しく、トムラウシの比ではありませんでした。間違いなく記憶に残る山行となりました。山行記録以外にも面白エピソードがいくつかありますが、参加者が相馬リーダーを除いた 6 名が B 型であったこと。そして全員が健脚者であったこと。四国から来ていた仙人のようなちょっと変わった超人男性との出会い等々、詳しいことは参加者からお聞き下さい。いつの日か今度は本当にニペどんが見れる日にチャレンジしたいです。一緒に登ってくださったメンバーに心より感謝します。ありがとうございました。

記録 宇田

